

令和8年4月21日（火）
（公財）広島平和文化センター国際部
平和首長会議・国際政策課 熊崎、河野
電話：242-7821 内線 5802

第11回NPT再検討会議への 出席等に係る主な用務について

米国・ニューヨーク市で開催される第11回NPT再検討会議に出席する広島市長（平和首長会議会長）の現地での主な用務については、以下のとおりです。

1 主な用務（変更の可能性あり）

日 付	主 な 用 務	資 料
4月27日 （月）	・第11回NPT再検討会議のオープニング傍聴	—
	・日本被団協主催、広島市及び長崎市共催の国連原爆展オープニングセレモニーへ出席	—
4月28日 （火）	・ラザル軍縮会議仏国政府常駐代表との面会	—
	・平和首長会議ユースフォーラムの開催 【平和首長会議主催サイドイベント①】	別紙1
	・市川軍縮会議日本政府常駐代表との面会	—
	・グテーレス国連事務総長との面会	—
4月29日 （水）	・“Taking Stock of the NPT : Achievements, Persistent Challenges, and Emerging Opportunities”の開催 【平和首長会議主催サイドイベント②】	別紙2
4月30日 （木）	・国連国際学校（UNIS）訪問	—
	・ヴェトナム第11回NPT再検討会議議長との面会	—
	・ライリー軍縮会議英国政府常駐代表との面会	—
	・国連軍縮部、ポスターハウス（美術館）及び日本政府共催レセプション	—
5月1日 （金）	・NGOセッションでの市長スピーチ	別紙3

[その他の行事]

- ・ 会場内で以下の展示等を実施します。
こどもたちによる“平和なまち”絵画展：4月27日（月）～5月8日（金）
広島の被爆後の様子がわかるVRゴーグル体験：4月27日（月）～5月1日（金）

2 NGOセッションにおけるスピーチについて

- ・ 日 時：5月1日（金）10時～13時（広島・長崎市長は3番目に発言する予定です。）
- ・ 場 所：国連本部 General Assembly Hall
- ・ 提供資料：別紙3 スピーチ原稿（英・日本語訳。スピーチは英語で行います。）



- ・ スピーチ原稿については、5月1日（金）に両市長が会場でスピーチを行った後、解禁としていただきますので、厳守してください。

3 その他

- ・ 帰国報告の記者会見を5月13日（水）午後1時15分から予定しています。
- ・ 写真の提供を希望する場合は平和首長会議・国際政策課へ御連絡ください。現地から届き次第提供します。写真のクレジットは「平和首長会議提供」をお願いいたします。
- ・ 同会議への平和首長会議ユース派遣の詳細については、別紙4のとおりです。



第 1 1 回 N P T 再検討会議サイドイベント 平和首長会議ユースフォーラム開催要領

1 目的

次代を担う若者たちが自らの平和活動を通して感じた平和への思いを発表し、意見交換することを通して、核兵器のない平和な世界の実現を訴える。また、参加者同士の交流を深め、今後の活動の充実につなげる。

2 日時

令和 8 年（2026 年）4 月 28 日（火） 10:30～12:00

3 会場

国連本部 Conference Room A

4 主催

平和首長会議

5 ファシリテーター

大下隼 広島市立大学広島平和研究所講師

6 次第

- (1) 開会
- (2) 開会挨拶
平和首長会議副会長（長崎市長） 鈴木史朗
- (3) プレゼンテーション
ア 平和首長会議ユース
ア ユースピースボランティア（大学生） 植田真子（3 年）、北薊いろは（3 年）
イ 広島なぎさ高等学校 山本かの子（3 年）、曾根川裕子（2 年）
ウ ノートルダム清心高等学校 石丸陽菜（2 年）、林沙羅（2 年）
エ 広島大学附属高等学校 秋山僚佑（2 年）、矢澤輝一（2 年）
イ ナガサキ・ユース代表団
ウ 各国で平和活動に取り組む若者
ア シートン・ホール大学 在学生 アリー・ヴァイス
イ 国際連合軍縮部（UNODA）研修生 マルティナ・シュヤ
ウ 日本生活協同組合連合会 佐藤佳樹、矢崎友萌
エ 国際学生ヤングパグウォッシュ（ISYP）
- (4) 意見交換、質疑応答
- (5) ファシリテーターによるまとめ
- (6) 閉会

7 その他

進行は英語で行う。ただし、質疑応答において日本語で発言する者がいる場合は、逐次通訳で対応する。

第 11 回 N P T 再検討会議サイドイベント
“Taking Stock of the NPT:
Achievements, Persistent Challenges, and Emerging Opportunities” 開催要領
「NPT の現状を振り返る：これまでの成果、依然として残る課題、そして新たな機会」

1 目的

N P T 再検討会議の成果は、これまで最終文書採択によって評価されることが多かったが、近年はコンセンサス形成が困難となり、その採択が難しい状況が続いている。

本サイドイベントでは、N P T の三本柱（核不拡散、原子力の平和的利用、核軍縮）及びそれを支える「グラント・バーゲン(包括的合意)」の考え方に焦点を当て、これまでの再検討プロセスにおける取組の成果と課題を振り返るとともに、N P T が今後も国際社会において意義ある枠組みであり続けるための方策について議論する。

2 日時

令和 8 年（2026 年）4 月 29 日（水） 10：15～11：45

3 会場

国連本部 Conference Room A

4 主催

平和首長会議

5 共催

UNIDIR（国連軍縮研究所）

6 モデレーター

UNIDIR 所長 ロビン・ガイス

7 次第

(1) 開会

(2) 開会挨拶

平和首長会議会長（広島市長） 松井 一實

(3) プレゼンテーション

ア 核不拡散（発表者：UNIDIR 中東非大量破壊兵器地帯プロジェクト主任 チェン・ザック・ケイン）

イ 原子力の平和的利用（発表者：広島市立大学広島平和研究所講師 大下隼）

ウ 核軍縮（発表者：平和首長会議名誉顧問 ランディ・ライデル）

(4) ディスカッション

(5) モデレーターによるまとめ

(6) 閉会

8 その他

進行は英語で行う。ただし、質疑応答において日本語で発言する者がいる場合は逐次通訳で対応する。

Statement by MATSUI Kazumi
President of Mayors for Peace and Mayor of Hiroshima
NGO presentations
The 11th NPT Review Conference
New York, USA
May 1, 2026

Good afternoon, everyone. My name is MATSUI Kazumi, Mayor of Hiroshima and President of Mayors for Peace. It is a great honor to address you here.

Today, armed conflicts continue to unfold, claiming the lives of innocent civilians and destroying vital infrastructure. We are also worried that neglecting the rule of law, including the UN Charter, could trigger even more conflicts. Even if conflicts are fought with conventional weapons, the involvement of nuclear-weapon states heightens the risk of nuclear weapon use, causing inhumane consequences, up to extreme levels. As ordinary citizens, we are forced to live our daily lives with a profound sense of anxiety.

In every age, it is innocent civilians who fall victim to war. I strongly urge policymakers around the world to address issues rationally, rather than labeling others as either good or evil and arguing over whether attacks are justified.

Now, more than ever, we must reaffirm the value of the nuclear disarmament and non-proliferation framework. The NPT has underpinned the international order through its three pillars: nuclear disarmament, non-proliferation, and the peaceful use of nuclear energy. In recent years, however, we have seen little tangible progress toward nuclear disarmament. Having reviewed the achievements to date, we call upon all policymakers to return, with strong determination, to good-faith negotiations as required by Article VI of the Treaty.

Mayors for Peace initiative is being based on the ardent desire for peace of the *hibakusha* who rose from the ashes of devastation. Today, it has grown into a global network of approximately 8,600 cities. Even amid severe international conditions, we will never give up. By deepening dialogue and solidarity among citizens, and strengthening grassroots-level efforts, we will support peace initiatives at the national level.

Ladies and gentlemen, all participants, I believe that you can understand the importance to overcome the current reliance on fragile nuclear deterrence and wish for true peace. Once again, I urge all policymakers to advance nuclear disarmament and non-proliferation through diplomatic efforts based on dialogue.

Thank you.

第11回NPT再検討会議NGOセッション（5月1日）
松井平和首長会議会長（広島市長）スピーチ

皆さん、こんにちは。平和首長会議会長、広島市長の松井一實です。発言の機会をいただき、心より感謝申し上げます。

今、世界では多くの武力紛争が続き、市民の命が奪われ、重要なインフラが破壊されています。このままでは国連憲章を含む法の支配が揺らぎ、さらなる紛争の連鎖を招きかねません。例え通常兵器による紛争であっても、核保有国が当事者になることで核兵器使用のリスクは極限まで高まります。こうした状況の下で、我々市民は、際限のない不安を抱えながら日々を送っています。

戦争の犠牲になるのは、いつの時代も罪のない市民です。各国の為政者の方々は、相手を善か悪かと決めつけ、攻撃することの是非について言い争うのではなく、どうか核兵器がもたらす非人道的な惨禍を招くことのないよう理性をもって冷静な対応をしてください。

今こそ、国際社会が築いてきた核軍縮・不拡散の枠組みの価値を再確認すべきです。NPTは、核軍縮、核不拡散、原子力の平和的利用という三つの柱の下で国際秩序を支えてきました。近年は具体的な核軍縮の進展が見られない状況ですが、各国政府代表者の皆様には、NPTのこれまでの成果を再確認の上、第6条の誠実交渉義務に立ち返り、強い決意をもって交渉を進めていただくよう要請します。

焦土の中から立ち上がった被爆者の方々の平和への願いを原点に、広島と長崎から始まった平和首長会議は、今や世界約8,600都市が加盟する国際的な平和都市ネットワークに成長しました。平和首長会議は厳しい国際情勢の中にあっても、決して諦めることなく、市民社会とともに対話と連帯を広げ、草の根レベルでの取組を強化することにより、国レベルの平和への取組を支えています。

各国政府代表の皆様！核抑止に依存する現状を乗り越え真の平和を実現してほしいという市民社会の願いは、既に皆様の心の中で皆様の思いと共鳴しているはずです。どうか対話による外交努力を通じて核軍縮・不拡散を誠実に前進させていただくよう心から期待しています。

解禁日時
日付：2026年5月1日（金）
時刻：スピーチ終了後

別紙3：英

Statement by SUZUKI Shiro
Vice-President of Mayors for Peace and Mayor of Nagasaki
NGO presentations for the 2026 NPT Review Conference
New York, U.S.A.
May 1, 2026

Mr. Chairman, distinguished delegates, civil leaders, I am SUZUKI Shiro, Mayor of Nagasaki.

In August 1945, atomic bombs were dropped on the cities of Hiroshima and Nagasaki, instantly reducing these lively cities to ruins. By the end of that year, a total of approximately 210,000 precious lives had been lost.

'The sufferings of the past seem to be fading away. I fear this oblivion: I fear that such forgetfulness may lead to a new acceptance of the use of atomic bombs.'
These words were left to us by the late TANIGUCHI Sumiteru, who at the age of 16 was exposed to the atomic bombing in Nagasaki and suffered severe, deep-red burns across his entire back. Despite such immense suffering, he dedicated his life to lead the peace movement.

I believe his warning has become increasingly relevant today, as the nuclear taboo erodes and the reliance on nuclear deterrence deepens.
I am also deeply concerned that the downward spiral of 'force against force' may further escalate, ultimately leading to the outbreak of a nuclear war — 'nuclear weapons against nuclear weapons.'

As a representative of a wartime atomic-bombed city, I hereby appeal to you all with unwavering conviction: nuclear weapons are an absolute evil. Their total abolition is the only path for humanity to preserve life on Earth for future generations.

Now, I strongly urge all State Parties to reaffirm the commitments made at previous Conferences. I call upon you to fulfil your obligation to pursue negotiations on nuclear disarmament in good faith, as mandated by Article VI of the NPT, and to present a concrete path towards making tangible progress on nuclear disarmament and non-proliferation measures.

Before closing, let me share with you all the following message:

“Nagasaki must remain the last wartime atomic bombing site.”

Thank you.

解禁日時
日付:2026年5月1日(金)
時刻:スピーチ終了後

第11回NPT再検討会議第NGOセッション(5月1日)
鈴木平和首長会議副会長(長崎市長)スピーチ

別紙3:日本語訳

議長、各国政府代表の皆様、市民グループのリーダーの皆様、私は、長崎市長の鈴木史朗です。

1945年8月に、広島と長崎に原子爆弾が投下され、人々が暮らしていた街は一瞬で廃墟と化し、その年の終わりまでに両市合わせて、約21万人の尊い命が失われました。

「過去の苦しみなど忘れ去られつつあるようにみえます。私はその忘却を恐れます。忘却が新しい原爆肯定へと流れていくことを恐れます」。これは、16歳の時に長崎で被爆し、背中に真っ赤な大火傷を負いながらも、平和運動をけん引された谷口稜^{すみてる}さんが生前に遺した言葉です。

核をタブーとする意識が薄れ、核抑止への依存が強まっている現状において、この言葉がますます現実味を帯びていると感じています。

「武力には武力を」の負の連鎖がさらに加速し、ついには「核には核を」の核戦争に突き進んでしまうのではないかと強く危惧しています。

私は戦争被爆地の代表として、揺るぎない確信を持って訴えます。

「核兵器は絶対悪であり、核兵器廃絶こそが、地球上のいのちを未来へつないでいくため人類に残された唯一の道なのだ」と。

全締約国の皆さん、今回の会議において、これまで合意を重ねてきた事項を再確認するとともに、NPT第6条に定める核軍縮の誠実交渉義務が履行され、核軍縮・不拡散措置を確実に進展させるための具体的な道筋を示されることを強く求めます。

結びに、「長崎を最後の戦争被爆地に」という言葉を皆さんと共有し、私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。

第 1 1 回 N P T 再検討会議への平和首長会議ユース派遣事業の概要

1 事業概要

(1) 目的

次代の平和活動を担う青少年の育成を図るため、N P T（核兵器不拡散条約）再検討会議及びその準備委員会に、学校教育活動の一環として、核兵器廃絶の実現に向けて様々な平和活動に取り組んでいる平和首長会議ユースを派遣する。

(2) 内容

- ・日程：2026年4月26日（日）～5月3日（日）
- ・派遣先：米国・ニューヨーク市
- ・派遣人数：高校生6人、大学生2人

2 平和首長会議ユース

	氏名	よみがな	学校名	学年
1	石丸 陽菜	いしまる ひな	ノートルダム清心高等学校	2年
2	林 沙羅	はやし さら		2年
3	秋山 僚佑	あきやま りょうゆう	広島大学附属高等学校	2年
4	矢澤 輝一	やざわ てるかず		2年
5	山本 かの子	やまもと かのこ	広島なぎさ高等学校	3年
6	曾根川 裕子	そねがわ ひろこ		2年
7	植田 真子	うえだ まこ	安田女子大学	3年
8	北薊 いろは	きたぞの いろは	広島大学	3年

3 主なスケジュール

日付	主な用務
4月27日 (月)	・第11回NPT再検討会議のオープニング傍聴
	・日本被団協主催、広島市及び長崎市共催の国連原爆展オープニングセレモニーの傍聴
	・UNICEF訪問
4月28日 (火)	・平和首長会議ユースフォーラムへの出席【平和首長会議主催サイドイベント①】
	・市川軍縮会議日本政府代表部 特命全権大使との面会
	・ペース大学訪問（高校生のみ）
	・ニューヨーク市立大学訪問（大学生のみ）
4月29日 (水)	・“Taking Stock of the NPT : Achievements, Persistent Challenges, and Emerging Opportunities”の傍聴【平和首長会議主催サイドイベント②】 ・UNDP訪問
4月30日 (木)	・国連国際学校（UNIS）訪問 ・UNHCR訪問 ・国連軍縮部、ポスターハウス（美術館）及び日本政府共催レセプション
5月1日 (金)	・NGOセッション傍聴